

## 遊び場のない子どもたち

記録  
16ミリ  
白黒／37分

文部省選定〔推薦〕厚生省 日本PTA全国協議会 全国地域婦人  
団体連絡協議会 中央児童福祉審議会 優秀映画鑑賞会

- 企画  
保健福祉地区組織育  
成中央協議会
- 協賛  
日本自転車振興会

## スタッフ

- 製作  
村山英治  
大西雅夫
- 脚本  
村山正実
- 演出・撮影  
菊地 周
- 音楽  
大木正夫
- 解説  
牟田悌三

この映画は、高度経済成長の時代に入った大都市の子供の遊び場と遊びの変化を記録し、問題を提起している。当時、全国200都市の遊び場の実態調査によると、14歳以下の子供1人当たり「座布団1枚」の面積しか用意されていなかった。そんな時、子供はどんな方法で遊びを続け、大人は子供のために何をしたか。その実態をオムニバス風に綴っている。



遊びは子供の生活であり、心身の発達に欠くことのできないものだが、現代の子供たちの遊び場はどうなっているのだろうか。まず東京、南千住では子供たちは狭い道路で遊んでいる。道路は昔から子供の手近な遊び場であり、夏の夕涼みなど老人の社交場でもあった。しかし、現在では自動車の侵入で危険になった。子供は大人には気付かない面白い遊びをみつける天才で、同時に危険な遊びや遊び場に心を動かされる要素も多分に持っている。

新三河島駅の近くに子鳩遊園と呼ばれる遊び場がある。この一見平凡な遊び場は区立だが、実は板谷さんという1人の篤志家の努力でできたものだ。頻発する子供の交通事故に心を痛めて、映画館の跡地を遊び場にと、2年間役所に通いつめて実現させたのである。子鳩遊園は、板谷さんの努力で狭いながらも子供の心をとらえる工夫がされ、毎日小さな子供たちが遠くからも遊びにくる。だがこの公園の管理も個人ひとりでは限界がある。

一步進んで、お母さんたちに支えられた地域の学童グループに「みどり会」が中野区の一隅にある。お母さんたちは、専門家の保母さんに協力してもらって子供たちの放課後の生活指導もしている。会を支える大人たちは、遊びが子供の生活の中でいかに大きな位置を占め、心身の成長にどれほど大切かを考え、努力を続けている。